

会員投稿 「戦国時代の激戦地も、今では未来産業の発展をめざすまち」

新田町木崎 近藤 正司 記

(今回は、新田町木崎にお住まいの近藤正司さんが、新田町広報の平成14年11月号にふるさとの薫風「戦国時代の激戦地も、今では未来産業の発展をめざすまち」として、寄稿したものをお読みくださいました。)

私のふるさと大垣市は、岐阜県南西部、濃尾平野西部に位置し、近くを流れる揖斐川により、豊富な地下水に恵まれた水の都です。町の中央を流れる水門川は、揖斐川に合流し伊勢湾へ通じており、舟運も市の発展を担った歴史をもつ商工業都市です。鉄道や道路交通も発達し、戦後、繊維・化学工業が発達しました。

その後、産業構造の改革が進み、自動車電装部品・電子機械制御部品の生産が盛んになり、最近では、ソフトウェア開発の先端地区としても発展しています。

市内の中心部に大垣城があり、濃尾平野西部の中心に位置していることから、戦国時代関ヶ原の戦いでは、石田三成の率いる西軍10万の本拠地となりました。松尾芭蕉の俳諧紀行「奥の細道」は、江戸を出発し奥羽・北陸をめぐり、大垣を結びの地として旅を終えています。

食文化において、富有柿の原産地であり、果実はやや偏平な大形で甘みが強く、柿羊かんとして、全国銘店街で販売されています。また、良質なお米を産し、酒米・寿司米として有名であり、あられの製造も盛んです。「夏草や兵どもが夢の跡」を偲びつつ、未来に思いを馳せてみませんか…………。以上

参考までに、大垣市のHPから大垣城についての情報をいただきました。



～岐阜県
おおがきし
大垣市～

大垣城は美濃守護・土岐一族の宮川吉左衛門尉安定により、天文4年(153

こんどう じょうじ
近藤 正司 さん(木崎)

5)に創建されたと伝えられています。

関ヶ原の戦いでは、西軍・石田三成の本拠地となりました。その後、戸田氏が十万石の城主となり明治まで太平の世が続きました。昭和11年(1936)に国宝に指定されましたが、昭和22年(1945)7月戦災で消失。昭和34年(1959)4月、4層4階の天守閣を再建し、名実ともに城下町大垣のシンボルとなっています。



(皆様の投稿をお待ちしています、内容は趣味、旅行記、日頃思うこと、ふるさと自慢、最近の出来事など、なんでも結構です。)